

# 名大の時間

## 「住めば都、名寄」

今年の2月、私が友人たちに「名寄の大学に勤めることに

なった」と伝えると、皆一様に「寒いよ!」「暑いよ!」という言葉をくれました。私自身のイメージもこの友人たちと同じであつたため「やっぱりね…」と、心の中で正直思いました。

古人いわく「住めば都」という言葉もありますし「どうにかなるさ」と思い、名寄へ来ました。引越して最初のアドバイスは、賃貸業者の担当者さんより「冬

の水道管凍結には十分注意してください!」、さらに「札幌とは寒さが違いますから!」というお言葉でした。

北海道の地に住み半世紀以上になりますので、多少の寒さには対応できるという自負が消し飛んでいきました。

さて、私が、今取り組んでいる研究は、寒冷地の温熱&光環境と健康への影響がテーマです。

これまで札幌を中心に、冷房設備のない病院の入院環境を調査し、夏の熱中症や冬のヒートショックなどについて、指導教授の指導を受けて調査・研究をしてきました。この研究のキーワードに「想像温度」という言葉があります。

人が「今は〇〇℃くらいか」と想像する温度です。人は、これまで体験した温熱環境の経験値をもとに、気温や室温などの温度に対する感覚を持っているということです。

同じような言葉で、体感温度があります。これは、気温と湿度・風速を用いて体感温度を簡易計算式で算出することができます。

体感温度には、個人の条件(年齢、性別、健康状態、代謝量、服装など)は考慮されていますが、「想像温度」は、感じ手であるあなたの温度です。

これを用いることで、個別の熱中症リスクが予測できればいいな…とと思っています。いまはまだ、この研究成果を発表するまでに至っていませんが、いくつか、皆様にお伝え

たいと思いますので、お力添えください。

看護学科准教授 高儀郁美

